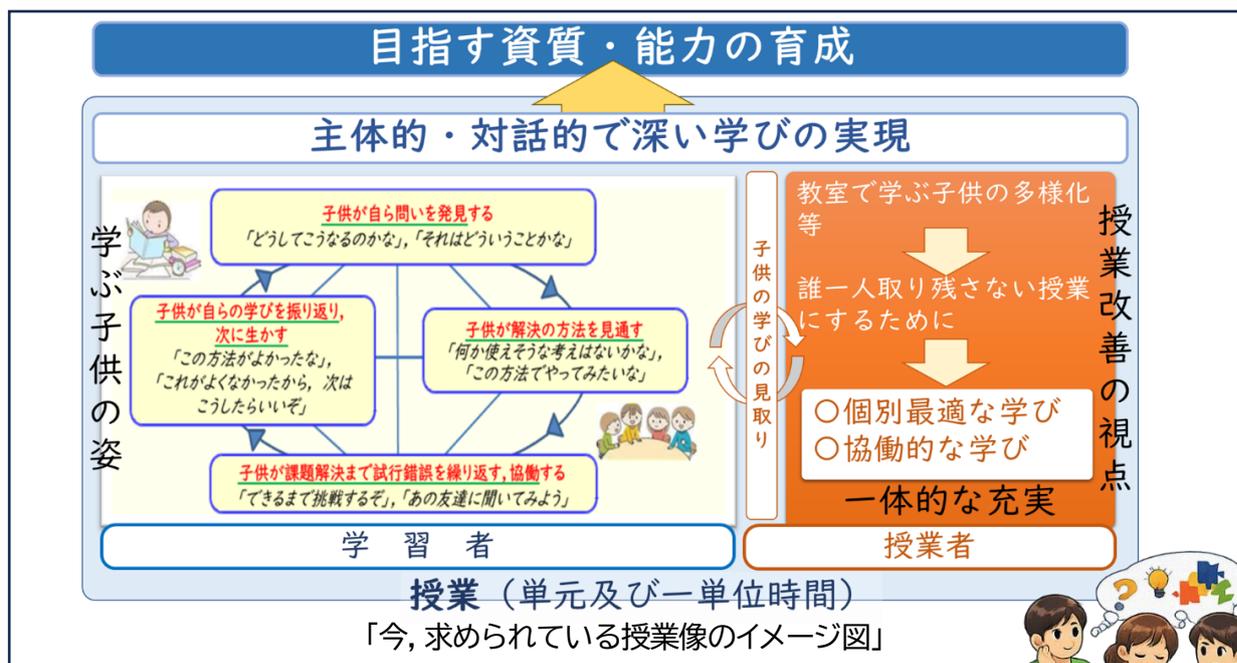


「目指す児童生徒像」の設定について

1 今、求められている授業像は

今、求められている授業では、子供が主体性を発揮し、自ら学びを調整したり、省察を重ねたりしながら、「頭の中がぐるぐる働きっぱなし」の状態学び続ける姿が期待されています。

このような姿を引き出すためには、「子供が何を、どのように学びたいのか」「どのような学び方が適しているのか」といった子供の思いや特性に寄り添いながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体化という視点で授業改善を進めていくことが必要となります。



2 「目指す児童生徒像」設定のよさ

今求められている授業を形にするための出発点は、目の前の子供一人一人の学びを深く見つめることです。そして、見取った子供の学びの姿を基に、自校の授業改善の方向性を明確にしていくことが大切です。

なお、目指す児童生徒像を設定することには、主に次の二つの大きな利点があります。

- 全職員の授業改善のベクトルをそろえ、取組を「自分事」化できる。
- 設定した児童生徒像に子供たちが近付いているかどうかを基に、校内研修や授業改善の成果を評価することが可能になる。

3 「目指す児童生徒像」の設定について

～経験則からデータに基づく授業改善へ～

目指す児童生徒像を設定する際、CBTとなった鹿児島学力・学習状況調査を用いて、児童生徒の学習状況調査と正答率のクロス集計を分析するなど、子供の学びの状況を反映していくことが有効です。以下は、その手順となります。

(1) 「クロス集計表」を開く

結果・集計	結果	日時
テスト結果	結果	2025/02/24 09:58
テスト集計結果	結果	2025/02/28 06:19
テスト結果ダウンロード	結果	2025/02/24 08:06
クロス集計表	結果	2025/02/24 08:06
受験者個人レポート	結果	2025/02/24 08:06

ここから自校の強みと課題の解像度を一気に上げていきます

(2) 自校のデータに潜む「課題」を発見する(A校の場合)

質問：学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。

質問No.	質問内容										
1-7	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。										
	No.	選択肢	割合(%)	0	50	100(%)	正答率(%)	平均との差	-50	0	50(%)
	1	当てはまる		[Bar Chart]					[Bar Chart]		
	2	どちらかといえば当てはまる		[Bar Chart]					[Bar Chart]		
	3	どちらかといえば当てはまらない		[Bar Chart]					[Bar Chart]		
	4	当てはまらない		[Bar Chart]					[Bar Chart]		
大隅教育事務所	No.	回答	割合(%)	0	50	100(%)	正答率(%)	平均との差	-50	0	50(%)
	1	当てはまる	54.0	[Bar Chart]			62.1	-2.1	[Bar Chart]		
	2	どちらかといえば当てはまる	35.7	[Bar Chart]			57.5	-6.7	[Bar Chart]		
	3	どちらかといえば当てはまらない	8.2	[Bar Chart]			55.2	-8.9	[Bar Chart]		
	4	当てはまらない	1.9	[Bar Chart]			55.1	-9.1	[Bar Chart]		

強肯定の割合が、地区と比較してもかなり低い

**正答率の落ち込みに注目
ここが課題発見のPOINT**

関連質問を見比べることで、さらに課題の裏付けや解像度をあげていく

質問：次のような授業で学んでいてどのように感じるか、当てはまるものを選んでください
【自分たちで考えたり、話し合ったりする授業】



質問No.	質問内容										
2-2	次のような授業で学んでいてどのように感じるか、当てはまるものを選んでください。【自分たちで考えたり、話し合ったりする授業】										
	No.	選択肢	割合(%)	0	50	100(%)	正答率(%)	平均との差	-50	0	50(%)
	1	とてもやりがいを感じる	20.8	[Bar Chart]					[Bar Chart]		
	2	やりがいを感じる	25.0	[Bar Chart]					[Bar Chart]		
	3	あまりやりがいを感じない	50.0	[Bar Chart]					[Bar Chart]		
	4	やりがいを感じない	4.2	[Bar Chart]					[Bar Chart]		

(3) 課題を裏返し、「目指す児童生徒の姿」へ変換していく

質問：学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。

質問No.	質問内容						
1-7	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。						
No.	選択肢	割合(%)	0	50	100(%)	正答率(%)	平均との差
1	当てはまる	21.4	■	■	■	62.1	-2.1
2	どちらかといえば当てはまる	35.7	■	■	■	57.5	-6.7
3	どちらかといえば当てはまらない	8.2	■	■	■	55.2	-8.9
4	当てはまらない	1.9	■	■	■	55.1	-9.1

No.	回答	割合(%)	0	50	100(%)	正答率(%)	平均との差
1	当てはまる	54.0	■	■	■	62.1	-2.1
2	どちらかといえば当てはまる	35.7	■	■	■	57.5	-6.7
3	どちらかといえば当てはまらない	8.2	■	■	■	55.2	-8.9
4	当てはまらない	1.9	■	■	■	55.1	-9.1

① 地区と比べると、当てはまると回答した子供が少ないな。



② どちらかと言えば当てはまらないとした子供の正答率は、平均よりも-3.2%下回っているな。



質問：次のような授業で学んでいてどのように感じるか、当てはまるものを選んでください【自分たちで考えたり、話し合ったりする授業】

質問No.	質問内容						
2-2	次のような授業で学んでいてどのように感じるか、当てはまるものを選んでください。【自分たちで考えたり、話し合ったりする授業】						
No.	選択肢	割合(%)	0	50	100(%)	正答率(%)	平均との差
1	とてもやりがいを感じる	1.9	■	■	■	62.1	-9.1
2	やりがいを感じる	35.7	■	■	■	57.5	-6.7
3	あまりやりがいを感じない	8.2	■	■	■	55.2	-8.9
4	やりがいを感じない	1.9	■	■	■	55.1	-9.1

③ 関連する質問と比較しても、あまりやりがいを感じていない子供が多いな。



A校の課題

A校の「目指す児童生徒像」

- ⚠️ 学び合いで考えが深まらない。
- ⚠️ 学び合いにやりがいを感じていない。
- ⚠️ 他者との学び合いに価値を見いだせない。

変換

- 🎯 対話的・協働的な学びを通して、自分の考えを強固・付加・修正していく子供
- 🎯 対話的・協働的な学びによさを感じる子供
- 🎯 自他の学びのよさを認め合える子供

(4) 「目指す児童生徒像」をブラッシュアップしていく

学習状況調査からの分析

学力調査からの分析

年度当初に、学校教育目標 ① や目指す子供像 ② を確認しましょう。また、校内研修等において、自校の子供たちの姿 ③ を振り返り、育成したい資質・能力 ④ や目指す授業像 ⑤ について語り合い、観を交流しましょう。

① 学校教育目標

② 目指す子供像

③ 自校の子供たちの姿

今設定している「目指す児童生徒像」と照らし合わせ、新たに「目指す児童生徒像」を設定し、全職員で共有する。



学力調査からも友達のことを生かさない姿が見えてきたな。「学び合いながら自他の考えのよさに気付く、生かすことができる子供」にしよう。